

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○	○		○	○	○	○	○	○				○

## 企業の概要

企業・団体名	株式会社ソウルウェア	本社所在地	東京都
業種	IT事業	総従業員数	10名
事業概要	ITクラウド製品の開発、販売		

## テレワーク実施概要

雇用上の規定	テレワーク勤務規程
テレワーク担当部署	営業部
テレワーク対象者	全社員
実施者数	10名
平均実施日数	月16回以上(概ね週4回以上)

## テレワークの導入・拡大の経緯

2012年に創業し、以来ずっと全員オフィス出社しての勤務をしていたが、2016年10月頃に3名の従業員から相次いで家庭の事情で他県に引っ越すことを理由に退職の相談を受けた。零細企業にとって従業員の損失は経営に大きな打撃を与えることになるし、社員が家庭と働く場所の事情でこれまでのように働き続けることができないというのはおかしいと感じた代表の吉田はわずかに半年でテレワークの体制を整えた。2017年4月頃から引っ越した従業員はフルリモート、東京にいる社員は週に1度のテレワークを実施し、段階的に出社回数は減らしていった。2018年9月には全員が完全に週5回のテレワークに切り替える。

## テレワークの概要・特徴

### ・テレワーク制度の概要・特徴

基本的には従業員の自宅からテレワークを行うが、家族との調整、息抜きなどの理由でカフェやファミレスなどからの勤務も自由。オフィスは池袋のWework(シェアオフィス)に拠点を置いており、来客や打ち合わせなどで自由に使用可。打刻は自社が開発、販売をする勤怠管理・交通費精算クラウド「kincone」のチャットツール連携を利用して「Slack」で全員が出退勤の打刻を行っている。

### ・テレワークの活用拡大や定着、効果的な運用のために工夫した点

きっかけは引っ越しを理由に退職する社員の為だったので、東京に引き続き残って勤務する従業員に最初はテレワークが浸透せず「家で仕事してもいい」と言っても、外線対応などを理由に気を遣って出社する者もいた。社員の誰かだけにしわ寄せがいく状況はよくないと考え、外線などはアウトソーシングし出社しなくても仕事できる環境を整えた。

### ・テレワークでの長時間労働を防ぐための具体的な取組

チャットツール上での勤怠打刻は在宅で仕事をしていても勤務の可視化が従業員全員でできるため、残業の抑止にもなっている。

## テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

### ・テレワークを導入したことによる経営にもたらした効果

全社員がテレワークに移行した2018年度(12月平均)は、全従業員の月間平均時間外労働時間は30.1時間でしたが、テレワークが定着した現在の2020年度(8か月平均)は6.0時間となっており、24.1時間減少した。

### ・テレワーク導入にあたり、ICTの利活用、地方への移住や地方活性化等の取組や成果

テレワークにより働く場所がどこでも就業可能になりましたが、それ以外に就業形態についても子育てや介護など、家庭の事情に応じて時短勤務を導入したり、逆に子育てを終えた女性をパートから正社員登用するなど、柔軟に対応しております。

また、裁量労働の社員でも労働時間が長すぎる場合には固定時間制に転換することで、本人や上長に労働時間の短縮意識をもたせるなど、労働時間の短縮にも力を入れています。